

Plurality and Science, Technology, Art
京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム
「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」

現代科学・技術・芸術と多元性の問題

PaSTA

Newsletter

No.11 (2004/09/02)

PaSTA 研究会ニューズレター第十一号をお届けします。今号では、世界的論理学者
グラハム・プリースト教授が今夏哲学研究室に滞在された関連で開催された国際シン
ポジウムおよび講演会についての報告と、9 月および 10 月に予定されている三つの
研究会の予告をいたします。

活動報告

- 国際ワークショップ： *The Plurality of Logic - Rationality, Inconsistency, and Belief revision*

(信念体系における矛盾に関する国際シンポジウムが以下の通り開催されました)

6 月 26 日 (土) 午後 2:30-5:30
京都大学百周年記念時計台記念館第三会議室

Graham Priest 教授 (University of Melbourne) *Contradiction, Rationality and Belief Change* (http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/priest/priest_040626.pdf から当日のレジュメが閲覧できます。)

中山康雄 教授 (大阪大学) 「信念構造の理論：合理的行為者の信念状態の表示方法」

私たちの信念状態はどのように表示できるのか？ 私たちはどのようにして信念を変えるのか？ 本発表で、私は、これらの問いに対する私自身のアプローチを説明したい (Nakayama (2001, 2004), 中山(2002))。TBS (信念構造の理論) と TIS (解釈構造の理論) の中心になるのは、二段階評価戦略である。新しい情報を得たなら、この情報は以前の信念構造に取り入れられ、その後、信念体系がこの新しい信念構造から算出される。それから、必要があれば、信念構造が修正される。合理的行為者は、彼の信念体系の整合性を保とうと努める。しかし、彼の信念構造はすべての古い情報を、たとえ、その一部が新しい信念体系に含まれていなくても、保ちうる。信念体系は整合的であるべきだが、信念構造の要素の和は、通常、矛盾を含んでいる。例えば、拒否された信念は、この行為者の信念構造の要素としてなお残っている。この特性は、人類の記憶システムにも共通している。

関連文献

1. Nakayama, Y. (2001) “ Scientific Reasoning and Belief Structure,” Proceedings of the International Conference on Artificial Intelligence, vol. II, CSREA Press, pp. 881-887.

(<http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/nakayama/SciReason.pdf>

から閲覧できます。)

2. 中山康雄 「経験主義的全体論」『科学基礎論研究』 Vol. 29, No. 2, pp.9-15, 2002

3. Nakayama, Y. (2004) “ Dynamic Interpretations and Interpretation Structures,” Proceedings of the International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics, Kanazawa, JAPAN, pp. 25-35.

(<http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/nakayama/NakayamaTIS.pdf>

から閲覧できます。)

コメンテータ：塩谷賢 氏

国際シンポジウム当日（2004.06.26）のようす



• Graham Priest 教授講演会

（Graham Priest 教授の講演会が以下の通り開催されました）

8月19日（木）午後 3:00～5:30
京都大学文学部東館 4 階 COE 研究室

講演者：Graham Priest 教授（University of Melbourne）

講演タイトル： *The Structure of Emptiness*

http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/priest/priest_040826.pdf

から当日のレジユメが閲覧できます。）

今後の予定

- 第 15 回 PaSTA 研究会：「普遍的規範は可能か？：カント倫理学の現代的意義を再考する」

日時：9月12日（日）午後 2:00-5:00

場所：京都大学文学部東館 4 階 COE 研究室

寺田俊郎 氏（明治学院大学）

「カントのコスモポリタニズム再考」

三谷尚澄 氏（京都市立看護短期大学）

「カントと「真正な生」：「多元 主義的に理解された自律」とは何か？」

司会：水谷雅彦 助教授（京都大学）

コメンテータ：

舟場保之 氏（大阪大学）

林芳紀 氏（立命館大学）

佐藤慶太 氏（京都大学）

発表要旨等については決まり次第以下のページなどに掲載いたします。

<http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/announce.html#040912>

・ その他の 9 月と 10 月に予定されている研究会

まず、9 月下旬に Bernard Gert 教授（Dartmouth University）教授の講演会があります。正確な日時や講演タイトル等については、当研究会のサイトおよびメーリングリストで決まり次第おしらせいたします。

また、10 月(今のところ 30 日の予定)には、ケアについての研究会が予定されています。この研究会では、大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室からも発表をしていただけることになっています。

PaSTA 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

「情報倫理の構築」プロジェクト室（神崎）

TEL: 075-753-2845

E-mail: pasta-hmn@bun.kyoto-u.ac.jp

Webpage: <http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/pasta/>

PaSTA 研究会の電子メール通知をご希望の方は事務局までご連絡下さい。